

結成40周年

記念誌



八重山ママさんバレーボール連盟

優勝旗・優勝杯



結成記念大会



吉田杯



年齢別大会



シニア大会



辻野杯



恵山会杯（一般）



恵山会杯（ママ）



発刊によせて

八重山ママさんバレーボール連盟が結成 40 周年を迎え、記念誌発刊を皆様と共に祝い申し上げます。記念誌発刊は、結成 10 周年・20 周年・25 周年・30 周年、そして今回 40 周年で 5 冊目となります。当連盟の歴史が記された貴重な資料として、ママさんバレーを愛する先輩から後輩へ託された思いが、強い絆で繋がっております。

40 年を顧みますと、時代は変わり人も変わりましたが、ママさんバレーの原点は変わることなく、現在までしっかりと引き継がれています。そして、記念誌から見えてくるのは元気で明るく笑顔あふれるママさんの姿で、その隣にはいつも応援してくれる子ども達や家族の姿がありました。母から子、子から孫へ、バレーボールを通して育んだ和と輪の心は、昭和・平成・令和の時代と共に繋がっていて、あらためて深い絆と連帯を実感し、胸が熱くなりました。

10 周年記念誌を拝読しますと、昭和 56 年 6 月「第 12 回全国家庭婦人バレーボール大会県予選会」に石垣中ママさん、朝日クラブの出場が記されています。そして、連盟結成前の昭和 53 年 6 月には「第 9 回全国家庭婦人バレーボール大会県予選会」に石垣第二中 P T A チーム、翌年 6 月「第 10 回全国家庭婦人バレーボール大会県予選会」には平真小 P T A チーム (辻野ヒロ子監督) が県大会に出場し、ベスト 4 へ進出したことに驚きと誇らしさを感じました。

また、離島のハンディを乗り越えて、県大会に何度も挑戦し、念願の「優勝」に輝き、沖縄県代表として九州・全国大会へ出場する等、当連盟の歴史に名を刻んだ「なかよしクラブ」「八重山クラブ」「八重山ママさんバレーチーム」「Happy」「はあと」「結クラブ」の皆様には心から感謝しています。

ママさんバレーは、女性だけで企画・運営ができる生涯スポーツ団体ですが、これまで当連盟の活動にご理解・ご協力くださった全ての皆様に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

理事長 古見 栄子

目 次

優勝旗・優勝杯	1
記念誌・発刊によせて	理事長 古見 栄子 2
あいさつ	八重山ママさんバレーボール連盟 会長 東内原とも子 5
祝 辞	沖縄県ママさんバレーボール連盟 会長 仲 榊 竹 美 6
	八重山郡スポーツ協会 会長 長 浜 信 夫 7
	八重山バレーボール協会 会長 富 村 龍 男 8
お祝いのメッセージ	八重山ママさんバレーボール連盟 顧問 真玉橋 宜子 9
	顧問 辻野 ヒロ子 10
	顧問 伊 計 照 子 11
ママさんバレーの思い出	副会長 豊 里 京 子 12
ママさんバレーの輪と絆	理事長 古 見 栄 子 13
ママさんバレーの発展に願いを込めて	広報部長 本村 久美子 14
40年のあゆみ	17
歴代役員	38
歴代受賞者	44
大会のあしあと	47
チーム紹介	74
結成 35 周年記念式典・祝賀会	82
記念事業（ソフトバレーボール大会・親睦ボウリング大会）	
思い出のアルバム	90
広報（絆）第 22 号～第 41 号	117
連盟規約	184
協賛広告	187
編集後記	200



あいさつ

八重山ママさんバレーボール連盟

会長 東内原 とも子

『家ぐるみママのバレーで明るい輪』をキャッチフレーズに、1981年(昭和56年)2月に当連盟が結成され、40周年の節目を迎えることができました。

バレーボールを通して和と輪の絆を培いながら、しっかりと実力を備えた魅力あるスポーツ団体としての存在感は大きな誇りであり、大変嬉しく思います。これも偏に結成当時ご苦勞なされた諸先輩方をはじめ、歴代会長・役員・会員の皆さまの協力、友情と連帯を深めママさんバレーボールの底辺拡大にご尽力いただいたおかげだと感謝申し上げます。

2013年(平成25年)に4代目会長としてバトンを受け継ぎ、月日が経つのは早いものだと実感しております。2016年(平成28年)10月29日~30日には、19年ぶりに沖縄県ママさんバレーボール八重山大会が石垣市で開催されました。県内のママさんバレーボールが集結した八重山大会、離れても仲間、ママさんバレーを愛する仲間、笑顔と心からのおもてなしで、学びと喜びのなか八重山大会を終えることができました。石垣市、また関係団体の皆さまからの物心両面のご協力・ご支援を賜り、参加者全員の心に残る大会となったことを改めて感謝申し上げます。また同年12月、福岡県で開催された「クイーンズ親善交流会」に60代の『結クラブ』が初参加。2017年(平成29年)には「第48回全国ママさんバレーボール大会県予選会」で『はあとチーム』が初優勝。岩手県花巻市での全国大会に県代表で出場するなど、八重山のママさんは離島のハンディを克服しながら活躍しています。

また、当連盟は『地域に根差したスポーツ団体』として、バレーボールの普及発展はもちろんのこと、会員一人ひとりが健康づくりの為だけではなく、組織の一員として高い認識を持ち、地域の為に役立ちたいという想いからボランティア活動にも積極的に参加しています。こうして私たちが目指す『スポーツを通して地域に根差した活動』を継続していることから、石垣市制施行70周年にあたり『体育・スポーツに関する功績』として受賞することができ、喜びを分かち合いました。私たちママさんは、大好きなバレーボールを楽しみながら心と心の触れ合い、通い合いを大切に体力づくり、健康の保持・増進に情熱を漲らせています。しかし現在、人類史上類を見ないほど全世界で感染拡大を続ける新型コロナウイルス、その感染症の拡大防止のため安全にスポーツができなくなり、練習や大会が中止・延期、また活動を自粛し、我慢を強いられています。どんなことがあっても諦めない気持ち、へこたれない勇気を教えてくれたのはママさんバレーボールです。この辛い時期を乗り越える為にも、家族や地域で笑顔の明るい輪を広げていきたいと思えます。

コロナ禍で東京2020オリンピック、パラリンピックが史上初めて1年延期されましたが、選手の皆さんは逆境を乗り越え、私たちに喜びと感動を与えてくれました。当連盟の40周年の記念すべき年に東京2020オリンピック、パラリンピックが開催され、忘れられない40周年になりました。

40周年の節目にあたり、今後もママさんバレーを愛する仲間とバレーボールの底辺拡大と生涯スポーツのママさんバレーとして『家ぐるみママのバレーで明るい輪』を合言葉に、会員一同益々精進してまいります。

記念誌の広告を含め支えてくださるすべての方に感謝申し上げ、これからも関係各位皆様の温かいご指導とお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。



祝 辞

沖縄県ママさんバレーボール連盟

会 長 仲 榊 竹 美

東京オリンピック・パラリンピックが開催されました記念の年に、「八重山ママさんバレーボール連盟結成 40 周年」を迎えられました事を、心よりご祝福申し上げます。

また、これまでの連盟の足跡を「記念誌」として残すことは、今日まで携わって下さった先輩方のご苦勞、ご尽力を後生に伝え、次代へ繋ぐ大変意義深い事だと思います。皆様が責務としてその事に取り組まれることに敬意を表します。

1 年遅れで開催されました東京オリンピック・パラリンピックが貴連盟の 40 周年と重なった年として、生涯忘れることが出来ないでしょう。

私はこの原稿を書きながら皆様との出会いや貴連盟のことを回顧しています。もし私がバレーをしていなければ、皆様との出会いはなかったし、私が県役員でなければ貴連盟の記念誌に寄稿することもなかった。小さな白球でも人と人を繋ぐ大きな力があることに、今更ながら感謝している所です。

また皆様は、離島であるが故のご苦勞も沢山おありかとお察しします。本島では連盟を越えての練習試合は容易ですが、皆様は厳しい環境下にあります。県大会にも日程や金銭面に悩まずに参加したい！審判勉強にも力を入れ「ゆくゆくは派遣審判員」の夢もお持ちでしょう。幾多の不便やジレンマを抱えながらも創意工夫し、機が熟すると県大会に参戦！平成 27 年には「なかよしくラブ」が九ママー部で優勝し、長崎県への出場を果たしました。県も皆様のご苦勞を僅かでも解消しその思いに添えるべく、平成 28 年 9 月に平川理事長、他 9 人の審判員を貴連盟に派遣。暑い館内で汗だくになりながらも、県審判員の一挙手一投足を見逃すまいと実技に取り組んでいたとの報を聞き、勝手ながら満足感に浸ったのを覚えています。翌 10 月には「沖縄県ママさんバレーボール八重山大会」が実現！交流会が盛り上がったのは勿論のこと、決勝戦での「なかよしくラブ A」vs「はあと」の地元対決が大会に大輪の花を添えてくれました。平成 29 年 8 月、第 48 回全国ママさんバレーボール大会には「はあと」が岩手県での全国大会に出場したのは記憶に新しい事です。ここ数年、貴連盟の飛躍には離島のハンディなど微塵も感じられず今後が楽しみです。

スポーツは健康の維持、増進を図るのが目的ですが、相互の親睦と友情を深めあうのも目的の 1 つです。海を隔てても私達は繋がっています。「白球」という強い絆で！

結びになりますが、貴連盟の礎を築いて下さった皆様、ご家族、関わって下さった全ての方々への感謝を忘れず、結成 50 周年には芸能の島に相応しい盛大な式典・祝賀会が出来ますよう願うと共に、皆様のご健勝と貴連盟のますますのご活躍、ご繁栄を祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



祝 辞

八重山郡スポーツ協会
会 長 長 浜 信 夫

八重山ママさんバレーボール連盟が輝かしい結成 40 周年の節目を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。また、貴連盟設立以来、歴代会長はじめ諸先輩方、関係者皆様方によってママさんバレーボールの普及、底辺拡大に多大なご尽力をなされてきましたことに心から敬意と感謝申し上げます。

さて、貴連盟は昭和 56 年に「八重山家庭婦人バレーボール連盟」として設立され、スポーツ活動だけにとどまるだけでなく地域に根ざした様々な活動を精力的に展開なされ、地域社会に果たす役割と貢献は大きなものがあります。児童生徒スポーツクラブの指導者や中学校体育連盟、高等学校体育連盟大会での審判員等の青少年育成、また、各種大会における積極的なボランティアなど 貴連盟の多方面に渡る八面六臂の活動には、ただ感謝の至りであります。

女性ならではの明るさとバイタリティーで元気溢れる会員皆様方のご活躍はスポーツの枠を超え地域社会に寄与されるなど極めて多大なものがあります。沖縄県民体育大会におきましては、女子バレーボール優勝をはじめ上位入賞を幾度と果たし本郡スポーツ史に燦然と輝く成果を残すなど、その功績は顕著であります。社会的に家庭婦人の環境は育児や家庭、仕事等、さまざまな面で多忙であり寸暇を惜しんでのスポーツ活動、地域活動と会員皆様のご貢献は並大抵なことではありません。改めて皆様方のバイタリティー溢れるご活躍と偉大さを痛感すると共に、頭の下がる思いであります。今後とも、貴連盟が飛躍すべく組織強化と会運営の円滑化を図りながら、会員皆様が生き生きとした充実する組織となりますようにご期待申し上げます。八重山郡スポーツ協会といたしましても、今後ますます貴連盟と連携、協力し合い本郡スポーツ振興・発展に邁進していく所存であります。

結びに、八重山ママさんバレーボール連盟結成 40 周年の節目を契機として、会員皆様方のさらなるご活躍と貴連盟の益々のご発展を意念申し上げ、祝辞といたします。



祝 辞

八重山バレーボール協会
会 長 富 村 龍 男

輝かしい八重山ママさんバレーボール連盟の結成 40 周年の節目を迎え「記念誌」を発刊されますことを心からお慶び申し上げます。

貴連盟の設立にあたり、創立当初の関係者並びに現役員の皆様には、これまでのご苦勞とご尽力に深く敬意を表し、心からお喜びいたします。

昭和 56 年、あれから 40 年。世の中も変わり、人も変わり、バレーボールの技術・内容も変わってまいりました。その中であって一貫として貫いてきました貴連盟のキャッチフレーズ「家ぐるみママのバレーで明るい輪」の心は時代を支え、家庭を支え、子供たちを支えて参りました。多忙な日々、子育て、お仕事、バレーボールと息つく間もなく歩んで来られましたことに心から称賛の意を表します。

昭和 56 年には、第 1 回石垣市民大運動会も開催され、貴連盟の結成共々記念すべき年でもあります。石垣島マラソン、トライアスロン、オリオンビールママさん大会等々、数多くの大会への惜しみない協力は、当バレーボール協会の誇りでもあります。

昭和・平成・令和と 3 つの時代を通し、今回東京オリンピック・パラリンピックの記念の年に 40 周年を迎えられましたことは誠にめでたいこととございます。コロナ感染の厳しい状況の下とはいえ、今日までの歩みを一冊の記念誌へ託す思いは素晴らしく、多くの皆様へ称賛されるものであります。今回発刊されます「記念誌」は八重山バレーボール界のみならず、八重山スポーツ界の貴重な財産になるものと思います。

長年の事業推進において、多くの人材を輩出し、沖縄県バレーボール協会への貢献にも素晴らしい実績があり、各学校、児童生徒のスポーツ活動・指導、中体連・高体連への各種大会における審判、青少年健全育成等へも参画するなどその取り組みは高く評価されるものです。八重山バレーボール協会におきましても、貴連盟の多大なる協力によりバレーボールの普及・強化や競技力の向上に負うところ大きく深く感謝いたします。

これからの新時代におきましては、ママさんバレーの豊富な経験を生かし、生涯スポーツとして健康増進を図ると共に、広く市民・県民にバレーボールの魅力や楽しさを伝え、大きく発展して頂きますことを願い、八重山ママさんバレーボール連盟の設立 40 周年を祝い、記念誌発刊、まことにめでとうございます。



結成 40 周年に想う

八重山ママさんバレーボール連盟

顧問 真玉橋 宜子

八重山ママさんバレーボール連盟が「結成 40 周年」の節目を迎えましたことを心よりお祝い申し上げます。

女子バレーボールといえば、1964 年に開催された東京オリンピックで金メダルに輝き「東洋の魔女」と呼ばれた歴史があります。その後から日本国内でバレーボールが盛んになり、各学校でも P T A バレーボール大会が盛んに行われました。

ママさんバレーは「家庭の幸は母親から」をモットーにスタートし、お母さん方の健康づくりのため、みんなに親しまれてまいりました。

昭和 56 年 2 月、当時の県連盟名誉会長(故)吉田正善氏のご指導を受け、国仲スポーツの国仲恵紀氏や崎山雅充氏の協力により、八重山家庭婦人バレーボール連盟は結成されました。塩川初枝さんを初代会長に、私は副会長として役員の皆様と組織の充実と強化に努め、友情の輪を広げてまいりました。そして、連盟結成後は離島からも大会に参加したり、宮古・与那国とも親善試合を実施したり、県大会や全国大会へもチームを派遣するようになりました。

私は、昭和 58 年から 4 期(8 年)を会長として、その後は顧問として平成 3 年度から 31 年間、八重山連盟に関わっております。年齢と共に足腰も弱くなっていますが、定期総会やママさんバレーボール大会を楽しみに日々頑張っております。試合会場の体育館へ足を運ぶと、娘や孫のような年代の皆さんと笑顔で会えることをとても楽しみにしています。そして、本部席で辻野さんと一緒に試合の様子を見ながら、若かりし頃のバレーの思い出を語るのも楽しみです。

今回の記念誌への寄稿というお話に、私の思いを皆さんへ伝えることができたとペンを取りました。ママさんバレーは生涯スポーツです。どうぞこれからも「家ぐるみママのバレーで明るい輪」を合言葉に、会員の皆様のご健勝でご活躍されることを祈念し、お祝いのメッセージといたします



結成 40 周年を共に祝う

八重山ママさんバレーボール連盟

顧問 辻野 ヒロ子

「家ぐるみママのバレーで明るい輪」をキャッチフレーズに、バレーボールを通して、多くの素晴らしい仲間との出会いの中で、お互いに切磋琢磨しながら活動을続けて、今年で 40 周年の節目を迎えることができ、皆様と共に喜び、心からお祝い申し上げます。

本来ならば、盛大な式典・祝賀会で盛り上げる事を楽しみにしておりましたが、未曾有の新型コロナウイルスの感染症拡大予防のため、中止せざるを得なかったのは大変残念に思います。コロナ禍の厳しい中、さすがママさんパワーは 40 年の活動の足跡を残そうと会長・理事長が中心となり、役員が一丸となって「結成 40 周年記念誌」を発刊される事に心から敬意を表します。

「光陰矢の如し」で、月日の経つのは早いもので、今静かに振り返ると、結成の頃からの思い出が走馬灯のように浮かんできます。結成に向けての組織づくりに大きな尽力を頂いた先輩方(吉田正善氏、大山正夫氏、国仲恵紀氏、宮城松夫氏等)の事も忘れてはいけないと思います。初代会長の塩川初枝氏、二代目の真玉橋宜子会長が、会員相互の友情と連携を深め、地域に根ざした活動を素晴らしいリーダーシップで基盤整備をして頂きました。平成 3 年に三代目会長として私に引き継ぎ長年(22 年間)務めました。その間、理事長はじめ、役員・会員の皆さんに力強く支えられ楽しく活動する事が出来たのです。改めて、心から感謝とお礼を申し上げたいと存じます。県大会は元より、九州大会、全国大会等も県代表として出場したり、県外の交流事業として、北海道稚内市や旭川市、長野県、東京都のチームとの親睦、交流の輪を広げることも出来ました。私にとって、ママさんバレーを通して多くの皆さんとの出会いがあり、大事な宝物(財産)となっているのも確かです。私達は、これまで女性の視点と感性でより良いスポーツ団体としての組織運営や活動を推進し、普及・底辺拡大にも取り組んで参りました。

40 年の歴史の中で、時代と共に、社会情勢・生活様式の変化などに伴い、メンバー入れ替えや、チームの変成などは付き物ですが、それでもポジティブにみんなで一つのバレーボールを追って、和気あいあいとチームワークも抜群です。女性の生涯スポーツとして、年齢別大会も盛んで、ママさんバレーは最適だと自信と誇りを持っています。又、地域のためにも役に立ちたいとボランティア精神も旺盛で、各種イベントにも積極的に参加しており「地域に根ざしたスポーツ団体」としても高い評価を頂いています。四代目会長として精力的で元気印の東内原とも子会長と、堅実で信頼性の高い古見栄子理事長のもとで、役員・会員が心を一つに頑張っている姿に心強く頼もしく思います。

「八重山ママさんバレーは不滅である」

結びに、会員皆様のみますますのご健勝とご活躍を期待すると共に、八重山ママさんバレーボール連盟が脈々と地域にしっかり根を張り、更に大きく強く発展することを祈念し、お祝いのメッセージといたします。



後輩へつなぐ思い

八重山ママさんバレーボール連盟

顧問 伊計照子

八重山ママさんバレーボール連盟「設立40周年記念及び記念誌発刊」心よりお慶び申し上げます。これは偏に、諸先輩の努力や関係各位の並々ならぬご協力・ご支援・ご指導の賜だと存じます。

昨年、人類脅威の新型コロナウイルスにより世界パンデミックという思いもよらぬご時世に遭遇、人、一人ひとりの行動にも規制や犠牲を強いられており、なかなか感染終息が見通せず、経済状況も混沌としており、世論は、毎日が新型コロナウイルス情報で錯綜し混迷の渦の中です。

にも関わらず、今年は、昨年延期の東京2020オリンピック・パラリンピックが無観客ながら開催されました。そこには、特にパラリンピック選手は大きなハンディを背負いつつも障害をもるとともにせぬ活躍があり、素晴らしい競技やパフォーマンスに一喜一憂を受け、感激と涙、感動を！そして生きる力強さを我々に与えてくれました。それこそが「スポーツ力の醍醐味」です。

当連盟も、新型コロナウイルス禍のなか諸事業や記念事業に取り組むも十分な活動ができず、役員に於いては本当に晴れ々さを感じ得ない、湯気の立ちこめる霧のような日々かと思えます。

その現状で頑張っている役員様、本当にご苦労様です。コロナ禍の回復はまだまだ厳しく先が長いように思われますが、感染予防対策に留意するなか出来ることから実践し、この危機を乗り越えれば宜しいかと思う。組織運営は、やはり何事もお互いの人と人なりの連帯を図るチームワークが大事です。

ママさんバレーは、年齢問わずにできる生涯スポーツとして楽しめず。そこには互いを労る大切さ、そして各々が積極的にボランティア、その他の事業に参加活動し関わることで、自らを向上するも失うものは少なからうと思う。

役員をはじめ役員相互で親和的に、一致団結の基、将来へ進向して欲しいです。大好きなバレーボールを愛する先輩達が、築きあげ培ってきたこれまでの40年の土台を礎に、未来への「栄光の架け橋」は、きつときつと繋いで行けます。「ママのバレーで明るい輪」に輝きを！

末筆になりましたが、ここに、設立40周年記念を祝し、更なる「八重山ママさんバレーボール連盟」のご発展と、会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



ママさんバレーの思い出

八重山ママさんバレーボール連盟

副会長 豊里京子

八重山ママさんバレーボール連盟結成 40 周年を迎えるに当たり心よりお祝い申し上げます。
これまで組織を支え、大きく育ててくださった歴代役員並びに諸先輩方には心より感謝申し上げます。

私がママさんバレーボールと出会ったのは、先輩でもある会長の東内原とも子さんに誘われたことがきっかけです。白保クラブの一員として体力増進を図り、素晴らしい仲間と共にさわやかな汗を流し、週 1 回の練習がとても楽しみでした。当時二人の子供はまだ幼く、仕事に家庭・子育てと多忙の中でしたが、私が唯一リフレッシュできる時間がバレーボールの練習でした。

私たち白保クラブには、結成当初から 3 人の指導者（古堅力さん、仲宗根哲夫さん、今は亡き東内原克さん）がいてくれて、時には厳しく、時には優しく関わっていただきました。当時はバレーボール経験の少ないメンバーが多く、指導者たちは基礎から指導してくださり、結成から最初の大会に出るのに 2 年の充電期間として練習に励みました。バレーボールが少しずつ上手くなっていくと、楽しみが増え、大会への意欲が高まり、いろいろな大会に参加し、助け合い励まし合いチームの絆も深まりました。私もキャプテンという大役をさせていただくこともあり、仲間に助けられ、たくさんの学びと喜びをもらいました。白保チームとして県大会も経験しました。又、いそじ大会県予選会にも参加し、いきなりの選手宣誓もありましたが、八重山・石垣島をアピールできたことは心に残る思い出です。

平成 28 年 10 月には、19 年ぶりの「沖縄県ママさんバレーボール八重山大会」が開催され、沖縄県内から 28 チームの参加があり、入場行進と整列は圧巻で感動的でした。試合は熱戦が繰り広げられ、応援にも熱が入っていました。懇親会では、県連盟 VS 八重山連盟 VS 宮古島市連盟の余興で、笑いあり涙ありの会場がひとつになった仲間の絆を実感できました。

同じく平成 28 年度から微力ながら連盟の役員をさせていただいております。大好きなバレーを愛する仲間たちと石垣島マラソン、石垣島トライアスロン、その他ボランティア活動にも参加し、会員相互の親睦を深めてきました。バレーボールを通して培った仲間やその経験は、私の財産であり人生の糧となっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

今、世界的にコロナ禍で、多くの大会が中止・延期をせざるを得ない状況となっていますが、一日も早い終息を願っています。

「家ぐるみママのバレーで明るい輪」のキャッチフレーズで、生涯スポーツとして、会員と共にバレーボールをいつまでも楽しみながら、絆を深めていきたいと思っています。

これからも素晴らしい仲間たちと出会い、若いパワーを頂き、組織の充実・発展に微力ながら協力し、頑張っていきたいと思います。

今後ともご指導の程よろしく願いいたします。



ママさんバレーの輪と絆

八重山ママさんバレーボール連盟

理事長 古見 栄子

八重山ママさんバレーボール連盟が結成 40 周年という節目の年を迎えましたこと、また当連盟の足跡である結成 40 周年記念誌の発刊を、皆様と共に心よりお慶び申し上げます。

これまで、当連盟に対しご理解・ご支援くださった関係機関・団体の皆様、広告掲載にご協力いただきました事業者の皆様へ心から感謝申し上げます。

当連盟は、昭和 56 年 2 月 15 日に「家庭の幸せは健康な母親から」「ママさんバレーはママの手で」をモットーに結成されました。結成当時から今日まで、ママさんバレーの底辺拡大、組織の充実・強化にご尽力いただきました歴代役員並びに諸先輩方に敬意と感謝を申し上げます。

当連盟の活動は、主催事業である各種大会だけでなく「スポーツを通して地域に根ざした活動をしよう」をモットーに、ボランティア活動にも積極的に参加・協力しています。それは、連盟規約第 4 条に記されていますが、子どもを生み、育てたママさんならではの奉仕の精神からくるものと思います。

古くから「親の背を見て子は育つ」と言われますが、石垣島マラソンの準備作業や大会当日の給水ボランティア、トライアスロン大会の清掃ボランティア・備品袋詰め作業は、子ども達もお手伝いする等、私達の活動は子や家族に誇れるものと自負しております。そして、ママさんバレーはこれからも常に子ども達の模範でありたいと願っております。

昔も今も、仕事や家事・子育てと毎日が多忙なママさんにとって、県大会への出場は容易なことではありません。家族や職場の理解と協力、金銭的負担、そして何よりメンバーが 9～12 名揃わないと出場することができない等、離島のハンディは現在も私達の悩みです。そこで、県大会への参加が厳しいチームにも県大会を経験させたい、競技運営や審判技術、県チームのプレーから多くのことを学んでほしいとの思いで、沖縄県ママさんバレーボール連盟へ八重山大会の誘致を働きかけてまいりました。

当時の県連盟会長・理事長をはじめ役員の皆様方が私たちの思いをご理解くださり、平成 10 年 2 月、平成 28 年 10 月に念願の「八重山大会」が実現いたしました。県内のママさんチームが多数集結し、感動的な入場行進から開会式、熱戦が繰り広げられた試合の数々、夜の交流懇親会では芸達者なママさん達が舞台を大いに盛り上げ、沖縄本島・宮古・八重山のバレーを愛する仲間が笑顔で交流する姿は「沖縄はひとつ」「離れていても仲間」だということを実感し、今も心に残る思い出となりました。

しかし、少子高齢化の波、新型コロナウイルスの影響等、時代の流れと共にバレーボール人口が減少していることに危機感を覚えます。昨年からの世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症は、私達に多くの試練を与え、緊急事態宣言が発出されたりと忍耐の毎日ですが、コロナ収束後は持ち前のママさんパワーで活動を活性化したいと思います。希望の光は見えています。会員の皆様、「家ぐるみのママのバレーで明るい輪」を合言葉に笑顔で頑張りましょう。

最後に私事で恐縮ですが、平成 7 年度から当連盟の役員として活動させていただいております。現在、理事長という大役を役員・理事・会員の皆様に支えていただきながら務めておりますが、今後は連盟の将来を担う若いママさんへ、先輩方から学んだことを伝えながら組織の充実・発展に協力し、引き継いでいきたいと願っております。そして、八重山ママさんバレーボール連盟の更なる発展と皆様のご多幸・ご健勝を心から祈念申し上げます。



八重山ママさんバレーの発展に願いを込めて

八重山ママさんバレーボール連盟

広報部長 本村 久美子

八重山ママさんバレーボール連盟結成 40 周年を迎えることができましたことを心よりお祝い申し上げます。

近年、コロナ禍の中、バレーボールの練習や試合ができず、自粛の約 2 年間はチームの仲間にも会えず、寂しかった思い出となりましたが、徐々に新型コロナウイルス感染症が収まり、練習も復活できるようになって再びかけ活気あふれるママさんバレーができることを願っております。

当連盟は、平成 13 年 4 月に「広報部」が設置され、私は広報副部長として初めて役員を務めさせていただきました。そして、平成 13 年 8 月 17 日に初の広報紙「絆(きずな)」第 1 号を発行し、平成 26 年 4 月 20 日にはホームページを立ち上げました。広報部として、当連盟の年間行事や活動の足跡を残すことができ、ママさんバレーのお役に立てるととても嬉しい限りです。

私は理事 2 年、広報副部長 2 年、広報部長 13 年、副理事長 4 年と長年役員を務めておりますが、先輩からお声がかかるうちが花だと思い、微力ですが 21 年間頑張ってきました。平成 21 年 1 月 31 日には、八重山郡体育協会賞「スポーツ功労賞」を受賞しましたが、推薦して下さった連盟に心から感謝しております。

21 年前、古見栄子理事長から役員に誘われ、何も分からなかった私にいろいろな事を教えて頂き、役員ならではの思い出もたくさんあります。とても楽しかったスポーツ交流の旅では、北海道や長野県のママさんバレー仲間との交流試合や親睦会、旅行メンバーとの触れ合い等、今も忘れられない思い出です。また、同じチームには大好きな姉妹もいて「健康で若いばあばあだねと言われながら、70 歳までバレー頑張ろうね」といつも語り合っています。

私は、ママさんバレーを通して八重山の未来ある子ども達が心も身体も立派に成長する経緯を見ることができて、長年バレーボールを続けて良かったと心から思っております。ママさんバレーを愛する故山根治之監督も、結成 25 周年記念誌で語ってありました。

『お母さんについて来て、バレーを始めた子ども達が、八重山のまた日本のバレーを支えているのです。“家ぐるみママのバレーで明るい輪”このキャッチフレーズが八重山だけでなく日本全国に広がる事を願います』と。

幼い頃からママさんバレーの活動を見て育ち、鍛えられた子ども達が石垣島から各都道府県へと巣立ち大活躍しています。いつか、成長した子ども達が結婚し、母となって、八重山ママさんバレーボール連盟で活躍してくれることを願っております。